



高水地協ニュース

〒383-0025 中野市三好町 1-1-19 Tel.0269-23-0505 Fax.0269-38-0575

連 合 長 野
高水地域協議会

○ 発行責任者 小林 君男
○ 編集責任者 岩本 淳一

2015 列島クリーンキャンペーン実施

北信地連：中野市七瀬信号機付近を中心とした清掃活動 須高地連：須坂花火大会あとの清掃・片付け作業

連合長野の活動方針に基づく本年度の列島クリーンキャンペーンは、須高・北信両地連において構成組織の組合員が参加する中、地域内の清掃活動を昨年引き続いて同日に実施しました。

<北信地連>

今年の列島クリーンキャンペーンは、昨年同様に国道403号線の終点と国道292号線(飯山市方面および山ノ内町方面)が接続される中野市七瀬の信号を中心として、沿線の清掃活動を実施しました。

前日に梅雨明けした影響で、午前中からうだるような暑さの中、25名の参加者にゴミ拾いをしていただきましたが、昨年と比べ収集されたゴミの量が格段に減少し、地域の環境が比較的保たれていることが分かりました。参加された皆様、大変お疲れ様でした。

実施日：2015年7月20日(月/祝日)

場 所：中野市七瀬地区

時 間：午前9時から1時間半程度

参加者：13単組/25名(地連役員含む)

収集量：約10kg



北信地連の清掃活動に参加した構成単組組合員



開始前ミーティング(作業内容等)を聞く須高地連参加者

<須高地連>

昨年と同様、須坂市商工会議所が主体となる「第28回須坂みんなの花火大会」あとの清掃ボランティアとして、打ち上げ現場の臥竜公園百々川緑地周辺の清掃活動を実施しました。

涼しい早朝作業とは云え、皆が動き出した頃には気温が上がり、汗だくの中河川敷や葡萄畑の中まで足を運んで、大量の花火の燃えカス等を収集しました。参加された皆様、大変お疲れ様でした。

実施日：2015年7月20日(月/祝日)

場 所：須坂市臥竜公園百々川緑地周辺

時 間：午前6時30分から1時間程度

参加者：11単組/53名(地連役員・事務局員含む)

収集量：約50kg

労働組合が開設した

労金・全労済を積極的に活用しよう!

安保改正法案・労働者派遣法改正案改悪の国会動向

7月16日、安保法制(安全保障関連法案)が衆議院本会議で可決された。民主党など野党5党は反対を主張し、政権与党だけが賛成する中での可決となったが、民主・岡田克也代表は、「強行採決は戦後民主主義の大

きな汚点になる」と述べ、安倍政権を強く批判した。しかしながら、衆議院で強行可決されたことで本法案は参議院に送られ、これから成立の是非に向けた議論が行われる。

一方、企業が派遣労働者を受け入れる期間の制限を事実上撤廃する労働者派遣法改正案は19日、衆院厚生労働委員会で自民・公明両党の賛成多数で可決し、与党側の衆院本会議への緊急上程で、改正案は賛成多数で可決された。民主・維新・共産の3野党は、「派遣労働者の処遇改善に繋がらず、不安定な雇用が拡大する」として厚労委の採決で反対した。

本改正案について政府・与党は、「安倍晋三政権が進

める労働改革の一環で、柔軟な働き方の実現を目指すことが目的だ」と言っているが、これまで野党の猛反対や厚労省による条文ミスに加えて、衆院解散で昨年二度にわたって廃案となった改悪法案である。しかし、政府・与党は国会会期を大幅に延長して、数の力で成立させる情勢であり、私たちは連合行動を通して『断固改悪阻止』の姿勢を貫き、廃案に向けた世論喚起を巻き起こしていく必要がある。

安保法制（戦争法案）も、労働法制も参議院で廃案に追い込もう

安保法制は戦時の戦争、労働者派遣法改悪は平時の戦争である。それが、政治家にも国民にも分かっていた。派遣労働者がこれから激増し、その身分は固定化され、企業や人材派遣業者は笑いが止まらない。政治家全体に、国民を救うという気持ちがなくなってきた。だからこそ、私たちはこれらの本質を見抜き、連合が展開する「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現キャンペーン」とともに、「戦争をしない国を貫け！」の行動に参加し、国民への世論喚起を巻き起こし一致団結して、これらの改悪法案を参議院で廃案に追い込もう。



国会前集会の古賀連合会長
両脇は民主党岡田代表・枝野幹事長

＜古賀連合会長のコメント＞ ※7月の月例記者会見より

労働者保護ルールの改悪阻止を含めた国会情勢であるが、国会の会期は9月末までの大幅延長になった。労働者派遣法は残念ながら、衆議院を通過し参議院での議論がスタートしたところである。衆議院では、いわゆる「荷崩れ」のまま参議院に渡ったので、参議院での徹底した審議を求めるとともに、私たちは廃案に

向けた行動と歩みを緩めずに、「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現キャンペーン第3弾」の取り組みを執行委員会で確認し積極的に推進していく。加えて労働基準法改正も「いつ審議入りするのか」であるが、同様に阻止に向けた取り組みを展開していく。

他方の安全保障関連法案も、7月15日に衆院特別委員会で強行採決、翌16日には衆議院本会議で強行可決された。連合としては、15日に民主党・連合の共催で集会を開催し、特別委員会での強行採決に強く抗議するとともに、16日の衆院本会議での強行採決を受け、民主党・連合の共催で国会前集会を開いて市民に広く「改悪阻止」を訴えてきた。

憲法に関連する、あるいは国の基本政策であり、「この国の形をどうしていくか」という極めて重要な課題が国民との合意形成もなく、政府与党が強行採決に出たということは極めて遺憾であり、強く抗議をするものである。世論調査の傾向は大方同じで、「今国会で成立すべきか・どうか」ということについては『No!』が過半数を超えているし、政府の説明と審議内容について「理解が進んでいるか・どうか」ということも7～8割が『No!』と答えているにも関わらず、政府・与党は「早く店終いし、支持率が下がらないうちに通してしまおう」との本音が見え隠れしており、それらのことについて我々は極めて強く抗議していく。これから参議院審議となるので、連合行動として民主党とともに「これからの改悪阻止に向けたスタートである」との思いで、行動を重ねていく必要があると考えている。

皆さん、是非とも連合行動に参加し世論喚起していきましょう！！

戦後70年は、米国による原爆投下の大殺戮から70年でもある。

連合長野の『原爆パネル展』が開催されます

昭和20(1945)年8月6日、アメリカは広島にウラン235型爆弾を、8月9日に長崎へプルトニウム239型爆弾をそれぞれ投下し、同年末までに広島で約14万人・長崎で約7万4千人が死亡した。犠牲になったのは女性や子供、老人などの一般市民がほとんどであり、明らかな無差別大量虐殺である。

あれから70年。唯一の被爆国日本、そして日本人であるからこそ、その悲惨さを感じ取り、『世界の非核化』

を声高らかにアピールし非核化を実現しようとのテーマで、各地において連合の原爆パネル展が開催されています。

連合長野では、8月7日～12日(6日間)の日程において『連合長野ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル展』を開催します。広島・長崎に落とされた原爆による被害の実相と平和の大切さを考える機会として、是非ご家族・お友達などお誘い合わせのうえ、ご来場い

ただきたくお願い申し上げます。

日時：8月7日(金) 展示時間 12:00～20:00
8月8日(土) 展示時間 10:00～17:00
8月9日(日) 展示時間 10:00～17:00
8月10日(月) 展示時間 10:00～20:00
8月11日(火) 展示時間 10:00～20:00
8月12日(水) 展示時間 10:00～17:00

会場：もんぜんぶら座3階の市民ギャラリー
 長野市新田町 1485-1

(参考資料)

広島市は毎年8月6日、長崎市は毎年8月9日に原爆死没者への追悼とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願って平和記念式典を行い、両市長がそれぞれ「平和宣言」を世界に向けて発表しています。広島・長崎の悲惨な体験を再び世界の人々が経験することのないよう、核兵器をこの地球上からなくし、いつまでも続く平和な世界を確立しようと、これからも平和宣言は訴え続けていくでしょう。

◇◇◇ 平和宣言 (2014年ヒロシマ) ◇◇◇

被爆69年の夏。灼(や)けつく日差しは、あの日に記憶の時間(とき)を引き戻します。1945年8月6日一発の原爆により焦土と化した広島では、幼子からお年寄りまで一日で何万人という罪なき市民の命が絶たれ、そのうち14万人が亡くなりました。尊い犠牲を忘れず、惨禍を繰り返さないために、被爆者の声を聞いて下さい。

建物疎開作業で被爆し亡くなった少年少女は約6千人。当時12歳の中学生は、「今も戦争、原爆の傷跡は私の心に残っています。同級生のほとんどが即死。生きたくても生きられなかった同級生を思い、自分だけが生き残った申し訳なさで張り裂けそうになります」と語ります。辛うじて生き延びた被爆者も、今なお深刻な心身の傷に苦しんでいます。

水を下さい！ 瀕死の声が脳裏から消えないという当時15歳の中学生。建物疎開作業で被爆し、顔は焼けただけ、大きく腫れ上がり眉毛や睫毛は焼け、制服は熱線でボロボロとなった下級生の懇願に、「重傷者に水をやると死ぬぞ」と止められ、耳をふさぐ思いで水を飲ませなかったのです。「死ぬと分かっていたら存分に飲ませてあげられたのに…」と悔やみ続けています。

あまりにも凄惨な体験ゆえに過去を多く語らなかつた人々が、年老いた今少しずつ話し始めています。「本当の戦争の残酷な姿を知ってほしい」と訴える原爆孤児は廃墟の街で、橋の下、ビルの焼け跡の隅、防空壕などで着の身着のまま暮らし、食べるために盗みと喧嘩を繰り返し、教育も受けられずヤクザな人々のもとで辛うじて食いつなぐ日々を過ごした子どもたちの暮らしを語ります。

また、被爆直後生死の境をさまよい、その後も放射線による健康不安で苦悩した当時6歳の国民学校1年

生は、「若い人に将来二度と同じ体験をしてほしくない」との思いから訴えます。海外の戦争犠牲者との交流を通じて感じた「若い人たちが世界に友人を作ること」「戦争文化ではなく、平和文化を創っていく努力を怠らないこと」の大切さを――。

子どもたちから温かい家族の愛情や未来の夢を奪い、人生を大きく歪めた「絶対悪」をこの世からなくすためには、脅し脅され、殺し殺され、憎しみの連鎖を生み出す武力ではなく、国籍や人種、宗教などの違いを超え、人と人との繋がりを大切に、未来志向の対話ができる世界を築かなければなりません。

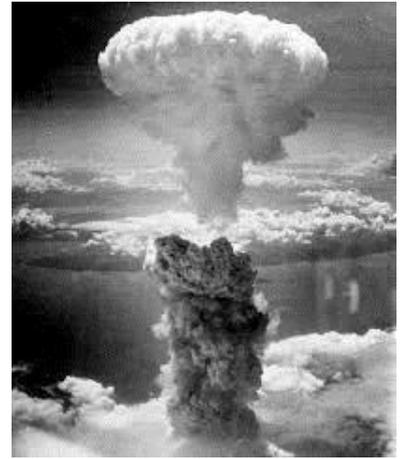
ヒロシマは、世界中の誰もがこのような被爆者の思いを受け止めて、核兵器廃絶と世界平和実現への道を共に歩むことを願っています。人類の未来を決めるのは皆さん一人ひとりです。「あの日」の凄惨を極めた地獄や被爆者の人生を、もしも自分や家族の身に起きたらと、皆さん自身のこととして考えてみて下さい。

ヒロシマ・ナガサキの悲劇を三度繰り返さないために、そして核兵器もない、戦争もない平和な世界を築くために被爆者と共に伝え考え、行動しましょう。

私たちが力を尽くします。加盟都市が6,200を超えた平和首長会議では世界各地に設けるリーダー都市を中心に国連やNGOなどと連携し、被爆の実相とヒロシマの願いを世界に広げます。そして、現在の核兵器の非人道性に焦点を当て非合法化を求める動きを着実に進め、2020年までの核兵器廃絶を目指し核兵器禁止条約の交渉開始を求める国際世論を拡大します。

人類の未来を決めるのは皆さん一人ひとりです。「あの日」の凄惨を極めた地獄や被爆者の人生を、もしも自分や家族の身に起きたらと、皆さん自身のこととして考えてみて下さい。ヒロシマ・ナガサキの悲劇を三度繰り返さないために、そして核兵器もない、戦争もない平和な世界を築くために被爆者と共に伝え考え、行動しましょう。

私たちが力を尽くします。加盟都市が6,200を超えた平和首長会議では世界各地に設けるリーダー都市を中心に国連やNGOなどと連携し、被爆の実相とヒロシマの願いを世界に広げます。そして、現在の核兵器の非人道性に焦点を当て非合法



化を求める動きを着実に進め、2020年までの核兵器廃絶を目指し核兵器禁止条約の交渉開始を求める国際世論を拡大します。

今年4月、NPDI(軍縮・不拡散イニシアティブ)広島外相会合は「広島宣言」で世界の為政者に広島・長崎訪問を呼び掛けました。その声に応え、オバマ大統領をはじめ核保有国の為政者の皆さんは、早期に被爆地を訪れ、自ら被爆の実相を確かめて下さい。そうすれば、必ず核兵器は決して存在してはならない「絶対悪」と確信できます。その「絶対悪」による非人道的な脅しで国を守ることを止め、信頼と対話による新たな安全保障の仕組みづくりに全力で取り組んで下さい。

唯一の被爆国である日本政府は、我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増している今こそ、日本国憲

法の崇高な平和主義のもとで、69年間戦争をしなかった事実を重く受け止める必要があります。そして、今後も名実ともに平和国家の道を歩み続け、各国政府と共に新たな安全保障体制の構築に貢献するとともに、来年のNPT再検討会議に向け、核保有国と非核保有国の橋渡し役としてNPT体制を強化する役割を果たして下さい。また、被爆者をはじめ放射線の影響に苦しみ続けている全ての人々に、これまで以上に寄り添い、温かい支援策を充実させるとともに、「黒い雨降雨地域」を拡大するよう求めます。

今日ここに、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

2014年8月6日 広島市長 松井 一實

地協平和集会『満蒙開拓平和記念館』の見学ツアー募集

地協活動の平和運動(学習会)は、構成組織組合員の参加を募り、昨年に引き続いて阿智村駒場にある満蒙開拓平和記念館を見学します。大勢のご参加をお願い致します。

<満蒙開拓平和記念館の紹介> ※機関紙第6号から転載

前事不忘、後事之師 ー前事を忘れず、後事の教訓とするー



満蒙開拓平和記念館は、旧満州(中国東北部)に植した満蒙開拓団の苦難の歴史を伝え、平和の尊さを次世代に語り継ぐために設立された満州移民史を扱う日本で唯一の民間施設です。

長野県は満蒙開拓移民を最も多く送り出した県ですが、開拓団員経験者の高齢化が進む中、開拓の背景と

実情、また敗戦後の引揚げの苦しさを伝える全国初の施設として開設されました。

中国残留孤児の帰国に尽力した阿智村の僧侶・山本慈昭の活動を伝える資料も展示しています。館内の展示は8区分からなり、「序章」は満蒙開拓に至る時代背景を解説しています。当時の映像を流す展示は、広大な土地を馬耕する様子を壁一面に映し出しているほか、「敗戦と逃避行」はソ連軍の参戦以降の日本軍の撤退と、置き去りにされた開拓団員が現地人の襲撃を恐れながら、コロ島に向かう様子を地図上で見ることができます。

<満蒙開拓平和記念館のHPより>

連合平和集会(広島・長崎)へ献納する千羽鶴対応の御礼

戦後70年となる本年も、「連合広島平和集会(8月4日~6日)」および「連合長崎平和集会(8月8日~10日)」へ連合長野代表団の派遣が予定され、全国の地域連合からも大勢の仲間が集い、節目となる集会が開催されます。

連合長野では、事前に各地協に対して集会に持参する『千羽鶴』作成を依頼し、昨年と同様にピースメッセージカードを添えた3万羽を超える作品が集まり、連合長野加盟の組合員を代表して献納することになっています。

当地協では、依頼された数量により全構成単組へのお願いはできませんでしたが、依頼した16単組のほぼ100%の単組にご対応をいただき、すでに連合長野へ

納めました。

ご対応いただいた単組へ心より感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。有り難うございました。

地協に集まった千羽鶴



以上